

令和 3 年 6 月 29 日現在

機関番号：23901

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18K00911

研究課題名(和文)台湾民主の銅像・雷震の思想歷程研究 日本留学期・中国の役人期・『自由中国』期

研究課題名(英文) The Research on the Process of Thoughts by Lei Zhen, the symbol of the Taiwan Democracy :The Period of studying in Japan and serving as a Government Official in China, and editing "Free China".

研究代表者

工藤 貴正 (KUDOH, Takamasa)

愛知県立大学・外国語学部・教授

研究者番号：80205096

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、戦後台湾の白色テロ期に、『自由中国』紙面で人権・自由・民主を標榜し蒋介石独裁政権と戦った雷震の民主主義思想の源流が、大正デモクラシー影響下の日本に留学し、京都帝大法学部の教授陣及び恩師・森口繁治から学び取った人権・民主・憲政思想であったことを立証した。また、2019年11月に愛知県立大学で行った日本で初めての「雷震国際シンポジウム」において、台湾と日本の文学・文化土壌、台湾の民主主義の源流、本省籍・外省籍台湾人の複雑な交流及び香港の民主主義の源流の一つには台湾の民主思想の影響があることなどが討論され、一般聴衆を含む150人程の参加者は雷震と日本の関係を知ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦後台湾における人権・民主憲政運動をめぐる具体的な理論の材源は、1949年以降戒嚴令の施行と日本語使用の発令、及び多く知識人の渡米留学体験により、日本人の著作からの具体的な言及はなされなかった。本研究により、外省系知識人の雷震が京都帝大法学部恩師・森口繁治の著作『近世民主政治論』に描く人権・民主憲政思想の理論を受容し、具体的な行動の材源の一つとなっていたことが解明された。これは台湾における外省系知識人と本省系知識人の交流を解き明かす重要な社会的意義を有する。

研究成果の概要(英文)：This research aimed to explore the origin of the democratic thought of Lei Zhen which advocated human rights, freedom, and democracy in "Free China" space and fought with the Jiang Jieshi dictatorship during the White Terror Period of Taiwan. It proved that Lei Zhen studied in Japan under Taisho democracy influence, and learned the frame of human rights, democracy, and constitutional government from the professors of the Kyoto Imperial University and his respected teacher Shigeji Moriguchi. This was the origin of how Lei Zhen constructed his own thoughts about democracy and constitutional government. Moreover, "Lei Zhen International Symposium" was the first international conference in Japan which carried out in Aichi Prefectural University in November 2019. In this symposium, it was discussed the background of Taiwan and Japanese literature and culture, the complicated exchange with the native Taiwanese and the migration Chinese to Taiwan, and the origin of the democracy of Taiwan.

研究分野：日・中・台比較文化文学

キーワード：雷震『我的学生時代』 森口繁治『近世民主政治論』 殷海光『中国文化的展望』 戦後台湾の白色テロ期 『自由中国』 人権・自由・民主・憲政 大正デモクラシー 国法学

1. 研究開始当初の背景

従来、日本における雷震の単独の研究は存在せず、一方台湾での雷震研究は、1949年5月施行の「戒厳令」以降、1992年5月の「中華民国刑法第一百条」の修正までの「白色テロ期」の影響下で、雷震が言論の自由、法治主義のために如何に当権者と戦い、戒厳令後に如何に民主化を確立したかが考察の論点であり、雷震の民主・人権思想が、どこで、どのように形成され展開したかという論文は全く存在しなかった。

雷震の民主・人権思想の骨格が日本で形成されたことを解明することは恐らく長期にわたる中国国民党政権の思想弾圧や、本省人や外省人間の思想的確執など様々な要因により障害があることが予想されるが、「雷震研究」にとっては欠落部分であった。

2. 研究目的

本研究は、大陸・中国からやって来た外省人である雷震の法治主義、民主立憲、人権尊重の思想の源流が「大正主義」特に「大正デモクラシー」の受容にあることを立証し解明することにある。この点が立証できると、台湾の民主化思想の源流の主要部に、単に日本殖民地期に<内地>留学体験が齎した本島人(後の本省人)の「大正デモクラシー」の受容からの普及があるばかりでなく、外省系知識人の雷震による強力な水面下での協力と理解があったという点を立証することにある。

1950-70年代の国民党統治期には、「70年代中国民族主義的集団経験叙事モデル」、すなわち本省人も外省人も同じ中国人であり、台湾人=中国人なら台湾も「中国五四伝統の文化精神」と「抗日精神」を共有するという「70年代パラダイム」の言説があり、現在でもこの言説はかなりの有効性を保っている。しかし、中国国民党の渡台と共に中国から齎された「中国五四伝統の文化精神」の流れを組む「徳先生」(デモクラシー)の思想は有効的には機能せず、中国国民党だけでは民主化が実現できなかった現実には、「70年代パラダイム」言説が虚像に過ぎなかったことをさらけ出した。そこで、「中国五四伝統の文化精神」とは何かを考察し、台湾ではそれをどのように捉えているかを解明する。

3. 研究の方法

(1)台湾・政治大学雷震研究センター、台湾・中央研究院図書館(人文社会科学聯合図書館、近代史研究所図書館、文哲所図書館)、中国・上海図書館、北京中国国家図書館において、雷震関係の資料を収集し、整理分析し、国際学会で発表する。

(2)雷震の回想録『我的学生時代』には、彼が主編した『自由中国』に本来掲載予定だった「京都帝大三年半」が1960年9月の『自由中国』停刊と雷震逮捕後10年間の収監を挟み収録されている。この「京都帝大三年半」には、雷震の思想形成に重要な役割を果たした恩師・森口繁治をはじめとする京都帝大教授陣の逸話と交流の思い出が綴られており、雷震の人権・民主・憲政思想の核心部となっていることを解明する。

(3)2019年は、雷震(1897.6.25-1979.3.7)の逝去40周年、日本正式留学100周年の記念の年に当たる。そこで「雷震国際シンポジウム」を研究代表者の本務校・愛知県立大学で開催し、「雷震が身を置いた大正主義の時代」「雷震の人権・民主・憲政思想」「台湾白色テロ期の社会・文化」に関するそれぞれの専門家を招き研究討論会を開き、最新の研究状況の報告を通して、「雷震研究」の今後の在り方を追求する。

4. 研究成果

(1)2018年12月、2019年9月、2019年11月に台湾と日本で開かれた国際学術シンポジウムで、雷震及び彼と共に行動した思想家、殷海光に関する報告をし、その後学術論文として公刊できた。

(2)愛知県立大学で2019年11月9-10日に、私が研究代表として「民国知識人と大正主義の時代」、「民主憲政と白色テロの時代」および「特別講演会」の3部会からなる「雷震・国際シンポジウム」を主催した。本会議は、日本で開催された初めての「雷震の国際シンポジウム」であり、台湾と日本の文学・文化土壌、台湾の民主主義の源流、本省籍・外省籍台湾人の複雑な交流の問題、及び香港に展開される民主主義の源流の一つに台湾の民主主義思想の影響があることなどが討論され、一般の聴衆を含め150人程度の参加者があり、盛会であった。

台湾側からは、雷震公益信託基金理事・雷震外孫の金幼陵氏、台湾国立政治大学教授・薛化元氏、台湾中央研究院教授・潘光哲氏、台湾静宜大学教授・張修慎氏、台湾国立台北教育大学助理教授・蘇瑞鏘氏、台湾致理科技大学助理教授・吳米淑氏、台湾国家教育研究院助理研究員・楊秀菁氏の計7名が報告を行った。日本側からは、九州大学教授・秋吉収氏、愛知学院大学教授・菊池一隆氏、東京大学準教授・中村元哉氏、愛知県立大学講師・岡崎清宜氏と私工藤の計5名が報告を行った。各部会は、愛知大学教授・砂山幸雄氏と名古屋大学教授・星野幸代氏と私工藤が司会を務めた。

(3)1919年から1926年まで日本留学を体験した雷震は、大陸・中国に帰国後、1949年に蒋介石と共に台湾に移住し、自身が主編する雑誌『自由中国』で法治主義、民主立憲、人権尊重の思想を追求して、白色テロによる被害の当事者となるも、戦後台湾に立憲民主主義を根付かせた。この政治思想と人権尊重の思想の源流が「大正主義」特に「大正デモクラシー」精神にあり、京都帝国大学法学部の恩師・森口繁治の『近世民主政治論』、『立憲主義と議会政治』、『憲政の原理と其運用』などの一連の著作にその思想源泉があることが立証できた。

(4)なお、「コロナ禍」による研究遅延のために設けられた1年間の研究延長は受けないことにした。それは中国における近年の言論統制により、たとえコロナ禍が収束しても、今後ますます「雷震の中国大陸での役人期における文人・文化活動（詩作、義務教育運動、文字改革運動）」によるリベラリズム思想の熟成の研究に必要な資料の入手が困難であることが予想されたからである。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 5件/うち国際共著 5件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 工藤貴正	4. 巻 総83期
2. 論文標題 從“文学革命”的時代轉換為“革命文学”的時代(下) 以馮乃超接受馬克思主義文芸理論為例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 上海魯迅研究	6. 最初と最後の頁 275-293
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 工藤貴正	4. 巻 総82期
2. 論文標題 從“文学革命”的時代轉換為“革命文学”的時代(上) 以馮乃超接受日本的大正生命主義為例	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 上海魯迅研究	6. 最初と最後の頁 304-321
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 工藤貴正	4. 巻 15期
2. 論文標題 雷震と京都帝国大学恩師森口繁治教授 日本留学体験之中所形成的初期民主与憲政思想	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東亞觀念史集刊	6. 最初と最後の頁 307-322
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する
1. 著者名 工藤貴正	4. 巻 52
2. 論文標題 雷震と京都帝大教授・森口繁治 日本留学体験における初期民主・憲政思想の形成	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 愛知県立大学外国語学部紀要(地域・国際編)	6. 最初と最後の頁 119-141
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.15088/00004217	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 工藤貴正	4. 巻 20
2. 論文標題 「文学革命」から「革命文学」の時代への転換(下) 馮乃超のマルクス主義文芸理論の受容	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 愛知県立大学大学院国際文化研究科論集	6. 最初と最後の頁 17-35
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00003838	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 工藤貴正	4. 巻 88
2. 論文標題 李漢俊と表現主義：圍繞と俄羅斯未来派の關係以及翻譯意義(上)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上海魯迅研究	6. 最初と最後の頁 126-142
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 工藤貴正	4. 巻 53
2. 論文標題 張我軍と大正生命主義 時代の転換期の翻訳は何を伝えたか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知県立大学外国語学部紀要(言語・文学編)	6. 最初と最後の頁 191-214
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00004455	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 工藤貴正	4. 巻 22
2. 論文標題 雷震回想録『我的学生時代』と大正主義の時代 ノスタルジア・文化伝統・文化変容の視点から	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 愛知県立大学大学院国際文化研究科論集	6. 最初と最後の頁 79-106
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) 10.15088/00004515	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 工藤貴正	4. 巻 89
2. 論文標題 李漢俊与表現主義：作為無産階級文藝表現手法的可能性(下)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 上海魯迅研究	6. 最初と最後の頁 152-165
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 工藤貴正
2. 発表標題 殷海光的共產主義理解与毛澤東《延安文藝講話》
3. 学会等名 財團法人紀念殷海光先生學術基金會 「殷海光誕生百年紀念」国際学術シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 工藤貴正
2. 発表標題 雷震在日本留学体験之中所形成的初期民主・憲政思想 圍繞恩師・京都帝大教授森口繁治与“国法学”以及回憶錄 我的学生時代 与森口所著 近世民主政治論
3. 学会等名 台湾中央研究院近代史研究所「西方經驗与近代中日交流的思想連鎖」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 工藤貴正
2. 発表標題 戦時中に構想された戦後の文学のかたち 毛沢東『文芸講話』における魯迅の役割
3. 学会等名 日本比較文学会第46回中部大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 雷震国際講演会・国際シンポジウム「東アジアの民主主義を台湾から考える」	開催年 2019年～2019年
-----------------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------